

# キャベツ黒腐病の発生に注意しましょう！

発生予察巡回調査(11月26日)において、泉州地域の一部ほ場でキャベツ黒腐病の

多発が認められました。その他のほ場では、ほとんどが少発生ですが、今後の天候次第では発生が増加する可能性があります。注意が必要です。

本病が進むと肥大が悪くなったり、結球内にも発生し、品質を著しく低下させ、減収させる場合があります。特に、晩生種の冬キャベツや春キャベツなどでは注意しましょう。

ほ場をよく見回り発生に気をつけ、下記事項に注意し防除に努めましょう。

## <生態と被害の特徴>

- ・キャベツの他、ブロッコリー、カリフラワーなど、あぶらな科野菜を侵す。
- ・病原菌は細菌の一種で土中で生存し、降雨などの水滴の跳ね上がりにより感染する。
- ・病斑部の病原菌は、雨風で飛散し、二次伝染する。
- ・発生初期は、下葉の周縁からV字型の黄色い病斑ができ、あるいは丸みを帯びた不整形の病斑となることがある。やがて病斑が拡大すると葉脈が褐色から紫黒色に変わる。
- ・さらに被害が進むと地際の茎が侵され、導管が黒変する。

発生予察巡回調査結果(25株調査／ほ場) 11月26日

	泉佐野市(長滝)	泉佐野市(日根野)
被害株率(%)	64(%)	4(%)

\* 長滝:3ほ場 日根野:2ほ場



黒腐病多発ほ場



黒腐病の被害葉

#### <防除対策>

##### (耕種的防除)

- ・あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ・収穫後の残さ(被害株や葉)は、伝染源となるのでほ場から持ち出し処分する。

##### (薬剤による防除)

- ・被害が拡大してからの薬剤防除は効果が期待できない場合が多い。予防散布や発生初期の防除に努める。特に、大雨や強風後は被害が拡大しやすいので注意する。

(薬剤は、下記参照)

#### <防除薬剤(キャベツ)>

- ・発生の見込まれる時期に次の薬剤を散布する(収穫前使用日数に注

意)。

ベジキーパー水和剤(1,000倍 発病前～発病初期／－)

キノドーフロアブル(800～1,000倍 14日／3回)

・発生を認めたら、次の薬剤を散布する。

バリダシン液剤5 (800倍 7日／5回)

アグリマイシン-100 (2,000倍 14日／2回)